

Roundtable for Yamaguchi-Busan-Hakata Transborder
Dialogues with Special Reference to Tsushima Island as a Link

対馬がむすぶ山口・プサン・博多： ボーダー研究と異文化共存の実践ワークショップ

◆国と国、地域と地域との間の「境」は、古代から現代までヒト・モノ・情報の行きかう接点であり、新しい文化を生み出す接点にも、対立・紛争を生み出す接点にもなってきました。境界線に係わる諸課題を読み解くボーダー研究や、国境を越えて／見据えて行う国境ツアーの知見をもとに、今回、新たに行った山口発プサン・対馬・博多の国境モニターツアーから見える世界についてCOCセミナーを開催します。多くの方のご参加をおまちしております。

◆タイムテーブル

13:00-13:10 開会の挨拶と主旨説明 安溪遊地 (山口県立大学国際文化学部教授)

13:10-14:10 基調講演1 アダム・セリグマン (ボストン大学教授、山口県立大学客員教授)

“Living with Difference: A proposal for constructing a new CEDAR program in Transborder East Asia”

(違いを保ってともに生きる：東アジア国境地域での新たな CEDAR プログラム = このチラシの裏面参照 = の提唱)

14:10-15:10 基調講演2 岩下明裕 (九州大学 アジア太平洋未来研究センター教授・

北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター教授 クロスアポイントメント)

「ボーダーツーリズム：九州・山口から韓国・東北アジアを結ぶ」

15:10-15:30 コーヒーブレイク

15:30-16:20 ラウンドテーブル

「対馬がつなぐ山口・プサン・博多の対話

——若者・市民から広げる異文化理解・寛容性・異文化共存」

16:20-16:30 まとめと閉会の挨拶 岩野雅子 (山口県立大学副学長)

※セリグマン教授の基調講演は英語 (訳文配布)、その他は日本語で行われます。



アダム・セリグマン教授



岩下明裕教授

日時：2017年 3月 24日 金 13:00~16:30

場所：九州大学 西新プラザ会議室 A (福岡市早良区西新 2-16-23)

入場
無料

主催：公立大学法人山口県立大学COC(地(知)の拠点事業) 共催：九州大学アジア太平洋未来研究センター
協力：ABSj (Association for Borderlands Studies Japan Chapter)・境界地域研究ネットワーク JAPAN・NPO 法人国境地域研究センター・人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」北大スラブ・ユーラシア研究センター拠点

